

函館工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	現代社会	
科目基礎情報							
科目番号		0073		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		生産システム工学科		対象学年		3	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		「高等学校 新現代社会 新訂版」 (清水書院)					
担当教員		松岡 由佳					
到達目標							
1. 民主社会の成立、国内外の政治の仕組み、日本国憲法について、データ等を用いた考察ができる。 2. 経済社会や企業について、データ等を用いた考察ができる。 3. 雇用・労働問題や社会保障について、データ等を用いた考察ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		民主社会の成立、国内外の政治の仕組み、日本国憲法に関する発展的な学習項目を理解し、データ等を用いて深い考察ができる。		民主社会の成立、国内外の政治の仕組み、日本国憲法に関する基礎的な学習項目を理解し、学習内容を踏まえた考察ができる。		民主社会の成立、国内外の政治の仕組み、日本国憲法に関する学習項目の理解が不十分である。	
評価項目2		経済社会や企業に関する発展的な学習項目を理解し、データ等を用いて深い考察ができる。		経済社会や企業に関する基礎的な学習項目を理解し、学習内容を踏まえた考察ができる。		経済社会や企業に関する学習項目の理解が不十分である。	
評価項目3		雇用・労働問題や社会保障に関する発展的な学習項目を理解し、データ等を用いて深い考察ができる。		雇用・労働問題や社会保障に関する基礎的な学習項目を理解し、学習内容を踏まえた考察ができる。		雇用・労働問題や社会保障に関する学習項目の理解が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 D							
教育方法等							
概要		現代社会が直面する様々な課題について、人文・社会的な視点から多面的に考察することを目指す。具体的には、民主社会、政治の仕組み、日本国憲法、雇用・労働問題、経済社会、企業、社会保障などのテーマを取り上げる。					
授業の進め方・方法		主にパワーポイントを用いて授業を進める。授業時間外の課題として、予習もしくは復習のための課題に取り組んでもらう。知識の習得にとどまらず、授業内容に関連する事柄について自分なりに考えることを大切にしたい。					
注意点		◎教科書等の忘れ物、授業中の居眠り、携帯電話の使用等は減点の対象となるので、十分に注意すること。 ◎課題の提出遅れは減点の対象となるので、必ず提出期限を守ること。 ◎インターネットからのコピーや他人のレポートの写しと判断した提出物は、すべて0点とするので、十分に注意すること。 ※授業内課題やグループワークを実施することがある。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって、授業内容の一部を変更する場合がある。 ※本科目は学修単位 (2単位) の授業であるため、履修時間は授業時間30時間と授業時間以外の学修 (予習・復習、課題・テスト等のための学修) を併せて90時間である。自学自習の成果は、課題によって評価する。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 1. 現代日本の政治		・現代社会での学習内容・学習方法を理解する。 ・現代日本の政治制度について理解できる。		
		2週	2. 世界の政治制度		・世界の政治制度について理解できる。		
		3週	3. 民主社会の成立①		・政治の意義や民主社会の成立について理解できる。		
		4週	4. 民主社会の成立②		・民主社会の展開を理解できる。		
		5週	5. 日本国憲法とその原理①		・日本国憲法制定の経緯とその原理を理解できる。		
		6週	6. 日本国憲法とその原理②		・日本国憲法憲法の特徴や課題を理解できる。		
		7週	7. 日本国憲法とその原理③		・基本的人権の内容と平等権について理解できる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	9. 雇用・労働問題①		・日本の雇用・労働問題の現状を理解できる。		
		10週	10. 雇用・労働問題②		・日本の雇用・労働問題の課題を理解できる。		
		11週	11. 経済社会とその仕組み①		・経済社会の仕組みを理解できる。		
		12週	12. 経済社会とその仕組み②		・経済成長や景気変動を理解できる。		
		13週	13. 現代の企業とその責任		・企業の仕組みや課題を理解できる。		
		14週	14. 社会保障の意義と課題		・日本の社会保障の課題を理解できる。		
		15週	定期試験				
		16週	試験答案返却・解答解説		・間違った箇所を理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。		3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。		3	

				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合						
	定期試験	レポート	ワークシート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	100
基礎的能力	60	10	10	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	10	0	0	0	20